

清陵生の活躍

親の感動

部活動に期待

子どもが中学・高校時代は“親バカ”でいいのです。 今何ができるか…我が子と一緒に親も成長しよう!

「音楽は愛だ」

中学校吹奏楽部保護者 園部 仁美

「音楽は愛だ」をモットーに活動をしている吹奏楽部は、中高一貫校の特色を生かし、中学生と高校生が互いに切磋琢磨しあいながら一緒に活動できる恵まれた環境のもと、日々の練習に取り組んでいます。

今年度は中学生13名高校生2名の新入部員を迎え、総勢50名でスタートしました。

5月に行われた横手地区吹奏楽連盟演奏会での演奏はとても迫力のあるサウンドでした。

指導して下さっている先生方、先輩達、協力して下さる保護者の方々、音楽に集中できる今の環境に感謝して、日々の練習に取り組んでいくつもりです。これから積み重ねていく日々がさらに素敵なサウンドを創りあげていくことでしょう。演奏を聴いて下さるすべての方に愛される最高の清陵サウンドを、ステージいっぱい響かせてもらいたいです。



「あきらめない…心」

中学校陸上競技部保護者 傳野 俊幸

6月9日に開催した市総体では、ほとんどの選手が日頃の成果を発揮し全県大会へ駒を進めました。この会報が発行する頃には全県大会も終えていることと思います。

今年度は、部員が20名とここ3年間では最高の部員数となり個人競技がメインである陸上も切磋琢磨できる仲間が増え活気あふれる部活動になっています。

息子が陸上競技を始め毎日の走り込みで肌の色も小麦色に変わり、自分なりに頑張っている姿を目にしました。試合ではなかなか結果が出ず悔しい思いをしていましたが、「絶対勝つー!」

気持ち忘れずいくら弱くたって、自分が胸を張ってあきらめず頑張ったと言えるように努力したおかげで一回り成長した姿を部活動を通じて感じることができました。

日々指導して下さいながら酒井先生、保護者会を盛り上げて下さいました会長をはじめ保護者の皆様には大変感謝しております。

本当にいろいろな感動をありがとうございました。



部活動と子供達の成長

中学校男子バドミントン部保護者 加藤 清真

どの部活に入ろうか、などと話していたあの頃から、あつという間に3年が経とうとしています。ほとんどの生徒が本格的にバドミントンをするのは初めてだったのに、今では1年2年合わせて12名の後輩もできて、すっかりそれっぽくなりました。日々の過ぎていく早さには、本当におどろくばかりです。

人間の一生の中で最も成長が著しく、様々なことを学ぶであろうこの中学3年間を、清陵中学校バド部で知り合えた皆様と過ごせたことに、心より感謝をしております。過去の私自身がそうであったように、部活動の中で学んだこと、経験したことは子供達にとってかけがえのない思い出になり、また困難に向き合った時、心の支えになるはずです。そしてなにより同じ目標をもって努力し、喜び、時にぶつかり合った仲間達は、人生の宝物であることに、気がつく日がくるでしょう。

加賀先生を始めとする指導者の皆様、保護者の皆様へ感謝し、子供達の成長を楽しみながら見守っていきたく思っております。



「疾風迅雷」の下に集う男達

高校男子バスケットボール部保護者 渡部 浩二

2年前「疾風迅雷」清陵高校男子バスケット部応援フラッグの下にあどけない顔と華奢な体つきの新入部員が集まりました。



練習は厳しく、特に夏場は食欲も体力も落ちる一方で辛い毎日の様でした。そんな日々を繰り返して、気付けば彼らも3年生。精悍な顔つきと大きくなった体は辛い練習に耐え、乗り越えてきた立派な男達に見えました。

新チーム結成後、極端な勝ち負けを繰り返してきての経験糧として、挑んだ全県総体も目標には僅かに届かず、高校生活の部活動に幕を閉じました。部活動を通して競技への勝ち負けだけではなく、自立性や協調性等多くの事を学んだと思います。今はまだその事への実感はないかもしれませんが、この先の人生で必ず体験し思い出の時が来るでしょう。その時、教



えて下さった先生やお世話になった方々への感謝の心を忘れないで下さい。今まで指導して下さいました先生、外部コーチには心から感謝申し上げます。また、保護者会の皆様にも感謝するとともに、これからもバスケット部の活躍を見守っていきましょう。

研究を通じて得られる普遍的な力

高校自然科学部保護者 鈴木 真司

高校自然科学部は現在4名。少人数ですがメンバー各々が自分の研究主題を定め日々切磋琢磨しています。その内容は細胞学、電波天文学などバラエティに富み、指導される先生方のご尽力、そして清陵の特色「探究」での蓄積の確かさを感じます。

昨年度は県理科研究発表大会での斎藤憲三・山崎真一賞受賞、日本学生科学賞秋田県審査会での読売新聞社賞受賞など成果を得ることができました。そうした結果も素晴らしいですが、何よりその過程で研究の「方法」と「楽しさ」を身に付けた事は得難い経験です。

発表内容に何度か訂正を入れてもらって、家に帰ってから行き詰まっていた様子を見せることも。でも試行錯誤を繰り返す中で、仮説を立て、検証し、その結果



を説明するという普遍的な力は確実に伸びていると思います。

今は夢中で追い求めるテーマに進んで下さい。この環境がどれほど素晴らしいか、後から振り返ってきくと分かると思います。

卓球と息子たち

高校男子卓球部保護者 佐々木 修一

我が家の息子たちは、共に清陵学院高校で卓球部に所属していました。長男は2年前に卒業したのですが、部の主将を務めさせていただけにありがとうございました。その長男に影響されてかどうかは分かりませんが、次男も後を追うように清陵卓球部に入部いたしました。

わずか半年間でですが兄弟でプレーし、様々な大会に出場し、兄弟ダブルスを組むなど親としては、応援に行くことが楽しすぎる日々です。



た。しかし、長男の卒業後は部員数も激減、次男が3年生の時には部員数2名…とても部活動と呼べるような形ではなかったと思います。しかしながら授業終了後、他校の練習に参加させていただきながら、決してあきらめず最後の最後まで卓球に打ち込む息子の姿に、我が子ながら感動さえ覚えたものでした。良い成績は残せませんでした。中学、高校の6年間の卓球生活で学んだ様々な事を、今後の人生、将来にいかして欲しいものだと思います。最後になりましたが、今までご指導いただいた先生方、保護者の皆様には感謝の気持ちを伝え終わりにさせていただきます。本当にありがとうございます。



文化部の事業計画について

高校文化部長 大倉 雅絵

今年度の文化部の事業計画として、7月30日(日)の横手市P連主催のバレーボール大会への参加と、9月9日(土)の学校図書館整理ボランティアを計画しています。毎年バレーボール大会においては、練習時から大会本番にかけて学年の異なる保護者との交流ができ、中高が保護者においてもひとつになる有意義な時間だと思います。大会



に向けて、7月11日(火)・27日(木)に学校体育館にて練習の予定ですが、なかなか汗をかく機会のない今日この頃ですが、怪我のない楽しい時間をつくりたいと思います。

学校図書館は、普段はなかなか見て触れることのない施設です。多少のワクワク感と整理を手伝える喜びとともに、子供たちが気持ちよく、そして利用しやすいように整理ボランティアを進めていきたいと思っています。



環境整備部の活動について

高校環境整備部部長 赤平 吉晴

今年度の環境整備部の活動は、春にチューリップの球根掘り、除草、花壇整備、花植えを行いました。秋には、チューリップの球根植えを行います。更に、清陵祭ではチューリップの球根を販売する予定です。また、日々の水やりは、環境整備委員会の生徒が主体的に行ってくれています。



5月27日はあいにくの大雨でチューリップ

の球根掘りが中止になってしまいました。後日環境整備委員会の生徒、先生方のおかげで球根掘り、花壇整備まで無事に行えました。6月10日の花植えはサルビア、ペゴニア、マリーゴールドなど色とりどりの花を植えました。今回は環境整備部の保護者の方々にも協力していただきました。更には今年度より協力していただいた保護者の方々にはゴム手袋を準備していただきました。おかげさまでスムーズに花植えをすることができました。是非送迎などで学校にお越しになった際はご覧ください。



校外生活指導部の活動について

高校校外生活指導部 渡邊 圭子

今年度も年3回、毎回5日間校門前、平鹿地域振興局交差点、松興会館交差点など5か所で先生方と生徒さんとともに「さわやか清陵運動」を予定しており、すでに4月、6月と2回事業が終了しました。特に6月12日の第2回初日の事は、今年度自転車の安全利用のモデル校になっていることもあり横手警察署の方が来ていただいたのを、熊現るの話題と共に、夕方



のニュースで見られた方も多くいらっしやっと思えます。保護者の皆さんには朝の忙しい時間の参加で迷惑をおかけしておりますが、元気な男子生徒さんが自転車からきちんと降りて挨拶してくれたり、恥ずかしそうにそっと挨拶してくれる生徒さんなど普段の生活が垣間見れる貴重な時間で、自然と自分達も笑顔になる時間と感じられたと思います。交通事故で大切なお子さんの命が脅かされることの無いように活動が繋がっていければと思います。来年度は皆さんが朝のお子さんの通学姿を見てくださいませんか？



まなざしという清陵学院のガイドブック

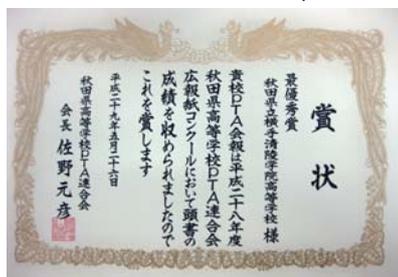
高校広報部長 柿崎 正継

清陵学院から発行されるお便りが、学生のところまでまわってしまい、ぶつちやけ親御さんの手に届かないことが結構あるのではないのでしょうか？



年3回発行される、PTA会報「まなざし」も、そんな目にあっているのでは。しかし、侮る無かれ、この「まなざし」が、昨年度の県高P連「最優秀賞」・東北高P連「奨励賞」を

受賞したのです！とてもユニークで話題に事欠かない当校だからこそだと、うれしく思います。広報部の定例会議でも、いつも数あるネタの中から「今回は何の企画にしようか？」と広報部員の皆さんが迷ってしまうほど、皆さんの知らない面白いネタに満ち溢れているのが我らが清陵学院なのです。そんな清陵学院のガイドブックともいえるこの「まなざし」今年も、他校にはない、珍しい、面白い、深い、今まで知らなかった新しい清陵を皆様にお届けするためがんばります！



生徒も知らない学校の謎

高校生特派員 22組 川田 ちひろ

私の抱えていた疑問

技師さんって普段何をしているのだろう。私が清陵に入学してから早5年、この謎はいつこうに解決しない。

そこで、前々から持っていた疑問を解決すべく、私は広報部の方々と技師さんの元へ。向かったのは技師室と呼ばれる関係者以外には入ることを許されない秘密の部屋。生徒で入ったのは私が初めてらしい。笑顔で迎えてくださったのは菅原さんと高橋さんと石塚さんの三人の技師の方々だった。

技師の仕事

早速、具体的な仕事内容を伺ってみると、勤務時間は基本七時～十九時までで、冬場はもっと早く出勤すること。朝は生徒の登校までに玄関の掃除と生徒の掃除区域外の清掃。冬場には重機での雪よせも加わる。昼は書類の整理やお金の出納に始まり給食の運搬までこなす。夜は玄関の鍵締めや各教室の施錠の確認。仕事の大変さについては知っていたが、現金の出納まで行っていることには驚愕した。

技師の方々が所持している秘密道具にマスターキーがある。これを使って毎日の解錠と施錠を行っている。もちろん盗まれないようにヒモで腰にくっつけておくことも忘れない。盗む人はいないと思うが、容易で無いことだけはお伝えしよう。



仕事に対してのやりがいを伺ったところ、菅原さんは芝の管理など、手をかけた分綺麗になり、頑張りが見えるところだと語ってくださった。高橋さんは、生徒からの仕事の依頼をこなしたときに貰える「ありがとう」の一言にやりがいを感じていると教えてくださった。石塚さんは掃除の仕事で綺麗になっていく実感を得たときにやりがいを感じるそう。お三方とも自身の仕事に誇りをもっていてカッコイイと思った。

技師になつたきっかけも伺ってみた。菅原さんは仕事の内容が多く、たくさん経験値が積める点。そして、他職業には無い仕事の多彩さや、やっていることが将来に向けてのスキルアップになっている魅力を感じたそう。高橋さんは元々ご自身の学生時代を含めて高校自体が好きで、学校に恩返しすると共に学校は楽しいところだと伝えられたためだと語ってくださった。石塚さんは前に事務の仕事をしていて、当時勤めていた学校の事務長さんに勧められこの職に就いたそう。

技師さんだからこそ知る学校の穴場スポットも教えていただいた。技師さんしか入れないが、雪室の隣にある機械室は夏場でもまるでクーラーがかかっているかのように涼しいらしい。そこには流石に私が行くことができるので、私たちが行くことのできる穴場を聞いてみた。雪室前に水道のみ、夏でも冷たい水が飲めるらしい。配管が雪室の下を通っているところに謎解決のヒントがありそう。ぜひ今年の夏に実験してみたい。

技師さんについてもっと詳しく!

今度は技師さんの仕事についてでは無く、技師さんのプライベートに関して質問してみた。まず手始めに、休日の過ごし方について聞いてみた。菅原さんはマリンスポーツをやっているそうで、サーフィンに始まり、カイトサーフィンやウインドサーフィン、ジェットスキー、ダイビングまでできるそう。菅原さんの肌が黒いのはこの御陰なのだろうか? 高橋さんは買い物と答えて



くだされた。料理が得意で、その料理についての買い出しをして過ごしているそう。得意料理は安いものをおいしく調理することで、ラーメンを作る際はスープも麺もご自身で作っているらしい。家の父にもぜひ真似してほしいものだ。石塚さんは、家事やお子さんのスポ小の送り迎えをしているそう。仕事と家事の両立ができていらっしやう。将来私も石塚さんのような素敵な母親になりたいと思つた。

これからやってみたいことについて伺ってみた。菅原さんはサトウキビの収穫などの農作業や、これまでに経験したことのないものに挑戦したいとおっしゃっていた。高橋さんは、出不精なため部屋から一步を踏み出すために旅行に行きたいそう。石塚さんは趣味ややりたいことを探したいそう。

清陵のよいところを教えてくださいました。菅原さんは中高一貫校であることと、この場を借りて、このよう激し合せて成長できるところがグットポイントだそう。高橋さんは最高五歳差がある人と同じ学校にいて友達になれる可能性があると挙げてくださった。社会に出てから年上の人とやりとりをする能力が育つ場所はなかなか無い。将来職場の人間関係を構築していく上で貴重な体験になっていると語ってくださった。石塚さんは挨拶がよい点を挙げ

てくださった。これを聞いたときに私は清陵生として鼻が高くなった。これからも挨拶には力を入れて全校生徒で頑張っていきたい。

プロフェッショナルの仕事の流儀

あなたにとってプロフェッショナルとはなんですか?

菅原さん

技師という仕事にはプロフェッショナルという言葉はない。自分のできることや知識をフル活用し、仕事をこなすだけだ。

高橋さん

広く浅くの「広く」を大きく広げることができる人。多くの仕事があるから、その道のプロには負けてしまうが、多くの知識をもって仕事を良質な物にしていること。それを周りに気づかれずにできること。

石塚さん

頼まれた仕事を補足した上で、よりよい仕事をする。

この記事を書くことによって、技師さんの仕事についての長年の疑問が解消できたことがとても嬉しかった。仕事に一生懸命な人は格好いい。そのことを質問していただき、感じました。この場を借りて、このような機会を与えてくださったPTA広報部の皆様、先生方、質問に快く答えてくださった技師の方々に感謝申し上げます。





教えて教育実習生

今年も卒業生が教育実習にやって来ました。母校に帰ってきて何を感じたのかコメントを頂いてみました。

教育実習を終えて

教育実習生 島田直哉

5月22日から6月16日までの4週間、教育実習として再び清陵で過ごし、貴重な経験をさせていただきました。4週間ということもあり、先は長いと感じていましたが、最終日になるとあっという間に感じていました。

清陵学院中学校での教育実習を通して、生徒の頃には感じる事が出来なかった教師という仕事の大変さややりがいを感じる事が出来ました。また、授業やホームルームを通じて、多くの生徒と関わり、日々成長していく姿を見ることが出来ました。後輩には、これからの学生生活の中で、沢山の事を考え今以上に成長して欲しいと思います。今回の教育実習を通して、より教員になりたいという気持ちが強くなりました。

4週間ありがとうございました。



教育実習を終えて

教育実習生 武田 紘

教育実習では、生徒の皆さんや先生方のおかげで充実した3週間を過ごすことができました。実際に教員という仕事のやりがいや苦労を経験し、「教員になりたい」と

いう思いがさらに強くなりました。今回の教育実習ができて本当に良かったです。

教育実習を通して、生徒として学校に登校していた時には気付くことができなかった先生方の努力や工夫を目の当たりにしました。生徒の皆さんには、そのような素晴らしい先生方が支えてくれる環境の中でのびのびと学校生活を過ごしてほしいと思います。

3週間本当にありがとうございました。

教育実習を終えて

教育実習生 草 弼 さくら

私は5月22日から6月9日までの3週間、教育実習生として清陵で過ごしました。不安と緊張の中で始まった教育実習でしたが、3週間は本当にあっという間で充実した実習週間を過ごすことができました。

教育実習を通して、実際に教育現場に出てみなければ分からない貴重な経験をさせていただきました。また中高両方の授業に参加させていただいたことも、清陵での教育実習でしかできない経験だったと思います。後輩の皆さんには、目標を高く持って様々なことに全力で取り組んでほしいと思います。

最後に、お忙しい中教育実習生として受け入れてくださった校長先生はじめ先生方に心から感謝申し上げます。3週間ありがとうございました。



第27回 「青春回顧録」

PTA会員の方からご自身の学生時代をテーマに筆頂きました。

→ご自分の青春時代と比べてみて下さい。

本当の仲間

Y・S

自分の中学生時代はバスケットボールの毎日でした。部活動といった時点で、授業の楽しいものからガラリと変わり、常に他人(他チーム)に勝つための練習でした。

限られた時間を最大限に活かして強くなる練習として、夏場に「大会を想定した練習」ということで、体育館の窓にあるカーテンを閉め切り、その中で普段と同じ練習をしたことや、冬場は屋外種目の部活動も室内練習になるため、限られた練習時間を確保する目的で体重が2kg落ちるまで校内をひたすら走ったこともありました。

社会人になり、ご指導いただいた先生から話を聞く機会があり、「当時は、よく身体を壊さず練習できたものだな。」と驚く状況だったことを知ったのは20年後の事でした。

何度か同期会を開催する度、当時の仲間と昔を懐かしみながら「今の時代、同じことをしたら絶対に新聞沙汰になるよ」と笑い話をします。

苦しい時ほど、人の本性が表れ、自分にとって本当の仲間であるか?を知ることができました。子ども達にも、苦楽を共有できる仲間巡りに巡り合ってください。



あとがき



暑中お見舞い申し上げます
新年度を迎えてから数ヶ月がたち、早くも夏休み。子供たちは新しい環境にも慣れ、PTA活動も盛んに行われているようです。

この度は、多忙の中この会報のために貴重な時間を使って原稿を寄せて下さいました皆様には感謝申し上げます。

またかと思いつながら苦労して書いた方、慣れた様子でサラッと書いた方、悩みに悩んで頭を抱えた方、初めての経験で慎重に事を進めた方、書いてみたら意外に楽しかった方、会報作成に興味があり参加を希望した方。皆様の使った流れるほど時と様々な思いが溢れるほどいっぱい素敵な詰め合わせが出来上がりました。お手元に届きましたらご賞味下さい。

PTA活動は同じ山を登る仲間の集まり。各々の少しの時間と優しい気持ちで寄せ合って、出来ることを生かし無理をお互いにカバーし合い、同じ目標に足並みをそろえます。そんな会報になりましたでしょうか？
暑い夏です、体調には気を付けてお過ごし下さい。



清陵ホームページ



広報部メールアドレス